

区民のページ

各区からのお知らせや魅力・取り組みなどを紹介します。

※人口は住民基本台帳による数(令和2年9月30日現在)。



北 区

人口: 296,054人 面積: 450.70km²

北区役所

〒700-8544 北区大供一丁目1-1 (市役所本庁舎および分庁舎内)

牧山ラインガルテン新管理棟オープン ～安全・安心な野菜作りに挑戦しませんか～

市民農園「牧山ラインガルテン」は平成30年7月豪雨により施設の一部に被害が生じましたが、このたび新管理棟が完成しました。

新管理棟は農園利用者が育てた野菜などを調理できる部屋や、作業の合間に休憩できる談話室などを備えており、野菜の育て方の本も常備しています。

また農業に詳しい管理人も常駐し、栽培講習会の開催、肥料や病害虫対策などの栽培相談も受けられるため、初心者の人でも基礎から野菜作りを学ぶことができます。

牧山ラインガルテンはご家族の憩いの場や定年後の余暇など、新しいライフスタイルとして自然の中で安全で安心な野菜作りを楽しむことができる場所となっています。農園の種類は8タイプあり、利用料は25㎡で年額9,250円からです。四季折々でさまざまな自然を楽しむことのできる牧山の地で、野菜作りに挑戦しませんか。

なお、牧山ラインガルテンでは、11月29日(日)にふれあい広場において、収穫祭として青空市などを10時から13時まで開催します。



▲新管理棟



●問い合わせ

牧山ラインガルテン

☎086-228-2280 (火曜日定休)



中 区

人口: 147,875人 面積: 51.24km²

中区役所

〒703-8544 中区浜三丁目7-15

沢田の富有柿 ～オレンジ色の秋の実り～

沢田地区では、明治時代に入り、果実栽培の機運が高まり、桃・梨・ブドウの栽培を次々と試みましたが失敗の連続でした。明治40年に岐阜県から導入した富有柿が、土地に合い、見事に定着したことにより、以後、栽培が広まりました。沢田の富有柿の栽培には、100年を超える先人たちの苦勞の歴史があります。

最盛期には20ヘクタールに及んだ農園も、現在は10ヘクタールまで減少しています。しかし、生産組合(組合員数34人)を結成し、うち25人で共同選果を行い、品質の向上と

産地の維持を図っています。

出荷数量は、10月中旬から12月中旬までに30トンの見込みです。

沢田の富有柿は、岡山県産ブランド柿として県内外から高い評価を受



▲沢田の富有柿

けており、学校給食への提供も行っています。

富有柿は、甘みが強く、多汁大果で果肉が柔らかい特徴があります。「柿が赤くなれば医者が青くなる」と言われるほど、柿は栄養価が高く、カリウムや豊富なビタミンC、カロテンなどが含まれる食品です。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、平成元年から開催している「沢田柿まつり」は中止となりましたが、例年どおり、市場への出荷、直売所での販売は行っています。

●問い合わせ

J A岡山 幡多支所

☎086-272-0801

各区役所への電話は、市役所代表番号からおつなぎします。

市役所代表

☎086-803-1000



東区

人口：94,728人 面積：160.53km²

東区役所

〒704-8555 東区西大寺南一丁目2-4

We Love 東区♥

おみやげ開発プロジェクトが進行中です！

岡山が誇る「おみやげ」を「東区」から生み出そうと、東区の高校生がおみやげ開発に取り組んでいます。

東区内4校の高校から8チームがエントリーし、7月のキックオフイベントを皮切りにセミナー・ワークショップを2回行い、チームの個性を生かしながら色々なアイデアを磨

いています。

セミナーでは「岡山駅のおみやげ動向について」や「現場の商品開発」など現場の第一線の人たちから講義を受け、「贈る人・贈られる人のことを考えて笑顔を届けられる商品を作りたい」とおみやげ開発への熱が高まっています。

今後は11月の中間発表会、第3回セミナーを経て、2月に行う発表会でグランプリを決定する予定です。

現在ウェブサイトとInstagramにより随時情報を発信しているのでご覧ください。特にInstagram



は各チームの開発の様子も見る事ができるのでぜひフォローをして応援してください。

Instagramハッシュタグ

#おみやげ開発プロジェクト

#WeLove東区



●問い合わせ

東区役所総務・地域振興課

☎086-944-5008



南区

人口：169,310人 面積：127.48km²

南区役所

〒702-8544 南区浦安南町495-5

おくはざかわ みどりまい 奥迫川地区に実る幻の「緑米」

今回ご紹介するのは、南区奥迫川地区で栽培されている緑米（古代米）です。

秋深まるこの季節、南区一帯は稲穂の黄金色一色に染まりますが、奥迫川地区では黒い稲穂が存在感を放ちます。この黒い稲穂の正体が緑米です。

薄緑色の玄米には、緑色の理由で



あるクロロフィルのほか、亜鉛やマグネシウム、繊維質が含まれ、血液サラサラや貧血予防の効果があると言われています。

通常のもち米より粘り気と甘みが強く、大変美味ですが、一方で白米の約半分と言われるほど収穫量が少ないことから、生産量が少なく、“幻の米”とも言われています。

奥迫川地区では、毎年地元の子もたちが参加して、緑米の田植えや稲刈り、収穫祭を行います。特にきねでついた出来立てのお餅は格別で、あんこ餅やきな粉餅は子どもたちに

も大人気です。

また、白米と緑米を8：2の割合で炊くのもおすすめで、甘みと栄養分豊富なご飯に様変わりします。

春の大山桜に続く秋の風物詩「緑米」を、ぜひ一度見て味わってみてください。



●問い合わせ

南区役所総務・地域振興課

☎086-902-3500